
超能力的な戦闘

色鉛筆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超能力的な戦闘

【Nコード】

N2496T

【作者名】

色鉛筆

【あらすじ】

能力者として小さな頃から実験の道具に使われてきた三人。その三人の脱出から物語が動き出す。

プロローグ

世界中の人に超能力が現れたのはつい最近の事だった。

正確には今から十五年前に起こったあるでき事より後に生まれて来た人に、この世の科学では説明出来ない不思議な力があつた。

最終的にそれは超能力と呼ばれるようになった。

超能力はそれまでに生まれていた人類には全く影響は無かつた、また人以外の生き物にも同様に全く影響が無かつた。

その能力を持つている人たちは今の段階では年齢は最長で十五なため表向きには無理はさせられないということになっていたが、裏ではこの原因を突き止めようとあらゆる実験が行われ多くの子供が犠牲となっていた。

「なあ、ここから出てみたいと思はないか？」

ある実験施設のなかでそんな事を言い出した少年は高幡秀、歳は十五くらいで髪は黒色で短め、服はまるで囚人服のような縞模様の入ったものを着ていた

秀は産まれてすぐにこの実験施設に入れられたため外を知らずまた外に多大な興味があつたのだ。

「そんなの無理に決まってるよ、今までだってそれで何人も捕まっていたし、それで厳しい処罰を受けて命を落とした子もいたんだよ」

そう秀とは逆に否定的な意見を言つたのは中野力、歳は十五くらいで髪は茶色のロングヘアだった。服は秀と同じく囚人服のような服、そして力も産まれてすぐに施設に入れられたので外を知らなかつた。

「いや、でも俺達三人の力ならもしかしたら……」

そう今度は賛成の意見を言つたのは安田博、歳は二人より一つ低く十四で髪は黒の角刈り、そして博も囚人服のような服を着ていた。

そして博二人とは違い両親が事故で亡くなる七歳の時までは外に居

たので三人の中で一番外に詳しかった。

秀が外へ行きたいと思ったのも博の外の話を聞いたからである。

「お前だつて外に興味があるだろ、それにこんなところで一生を終えるなんて死んでるのと変わらないじゃん」

「……わかつたよ、確かに僕らの能力ならうまくいくかもしれないし、それにそとにも興味があるからね」

「決まつたな、なら決行は三日後だそれだけあれば準備も整うだろう」

こうして三人の脱出計画が始まつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2496t/>

超能力的な戦闘

2011年10月8日12時49分発行